シリーズ
かほく市の文化財 No.57

有形文化財 編　潜水艇 TADPOLE（1）

暑さが厳しい季節となり始め、海の日も近づいてきました。今回は、海にちなみ、潜水艇ＴＡＤＰＯＬＥについて、No.57とNo.58の二回に分けて紹介します。

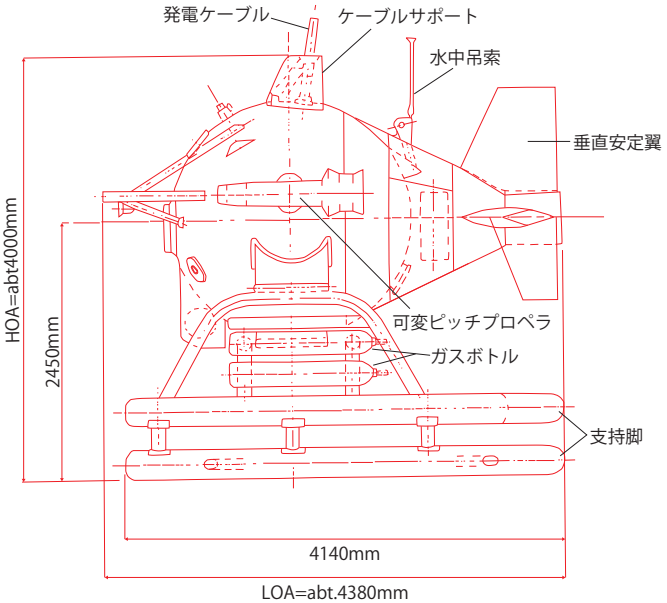
潜水艇ＴＡＤＰＯＬＥは、うみっこらんど七塚に野外展示されている潜水艇で、昭和４７（１９７２）年に日本舶用機器開発協会、三井海洋開発、三井造船が共同で開発した潜水艇です。主に水深５０～１００ｍの浅い水深で作業を行うことを目的として開発され、最大水深１００ｍ、排水量８・２トン、最大速度２ノット、乗員３名の有人潜水艇です。また、名称のＴＡＤＰＯＬＥは、「おたまじゃくし」を意味します。

また、この潜水艇は、試験機であり、実用までは至らなかったものの、「Ｒｏｃｋ ｉｎ Ｒｏｃｋ ｏｕｔ Ｓｕｂｍｅｒｓｉｂｌｅ」という形態をとっており、キャビンを深度圧まで加圧、またその圧力を保持し、キャビンから潜水士を送り出すことを可能とした機体であり、その実験が国内で初めて行われた機体です。また、当時の開発関係者らや元ＪＡＭＳＴＥＣ職員で「潜水艇しんかい６５００」のパイロットの田代省三氏によると、「日本国内では唯一の形態の潜水艇」である可能性が高いと評価しています。

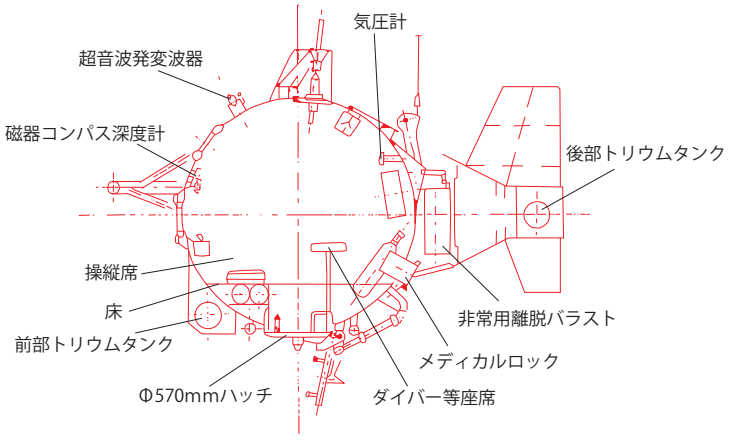
次回は、潜水艇ＴＡＤＰＯＬＥが開発された当時の背景や状況を見ていきたいと思います。

かほく市教育委員会 スポーツ文化課

側面図



内面図



王丸 寛「ダイバー・ロックアウト潜水艇 “TADPOLE” の概要」
『OCEAN AGE　6 号』 1974　オーシャン・エージ社　より
図をトレースし、一部補足

TADPOLE の図面（縮尺任意）